

## <ゆうかんスペシャル ステップ>ブレンデン・サネスキーさん(32) \*留学希望者のアドバイザー \*現地事情よく調べ出発を

1994/12/27 北海道新聞夕刊 3ページ 1122文字 書誌情報

<ゆうかんスペシャル ステップ>ブレンデン・サネスキーさん(32) \*留学希望者のアドバイザー \*現地事情よく調べ出発を

「ビジネス英語の腕を上げたい」「デザインは本場のパリで」－。若い人の留学熱は本道でも高まる一方。オーストラリア・ブリスベーン生まれのサネスキーさんは札幌の語学学校で、無料の留学相談を担当している。希望者に助言するのは「留学先の良いところだけでなく、悪いところも知って出かけること」だそうだ。

(原田伸一編集委員)

サネスキーさんが勤務しているのは、札幌市中央区宮の森一ノ、語学学校ジャズバン社(三原孝義社長)。四年前の設立で、現在の社員五人の母国は米国、ブラジル、スイス、オーストラリア、ニュージーランドと全員異なる国。しかも、みんなが同社の株主で「日本では珍しい経営形態」(三原社長)という。

「米国西海岸の大学に留学したい」。こんな学生が訪れると、サネスキーさんはまず、書棚からビデオを取り出す。これには現地の大学十数校の校舎、周囲の環境などが収められている。すべてスタッフが出かけたり、現地協力者が撮影した自前のものだ。

通常のビデオ紹介では、いかに素晴らしいかという売り込みが主になるが、これらのビデオには「学校の近くにホームレスが集まる場所がある」「適当なホームステイを確保するのが容易でない」などのマイナス点が、必ず盛り込まれている。

サネスキーさんは「留学は簡単、という専門業者の話をうのみにしたら大変なことになる。大学だと思って行ってみたら、単なる語学学校だった、というケースが少なからずあります。そんなこともあって、留学生の半数以上がドロップアウトするのでしょうか」と見る。

十月にJ R札幌駅構内のライラックパセオで五日間にわたる初の留学生相談フェアを開いたところ、千人近い希望者が訪れ、あらためて留学人気に驚かされた。留学先で一番人気なのは母国のオーストラリア、次いでカナダ、米国の順。「米国はやはり銃の事件などがあり、最近では敬遠されがち。本人より親が心配するようです。オーストラリア、カナダは安全というイメージがある」

中には「サンフランシスコの海洋公園でイルカの訓練を学びたい」「カナダで環境保全の勉強をしたい」という、かなり専門的な希望もあるそう。欧州ではロンドンの英語、パリのデザインが二大人気だ。

サネスキーさんは現在、道内の大学を歩いて学生の留学ニーズを探る一方、現地の公立大学を中心にビデオ撮影作業を進めている。「将来はこれらのソフトをデータベースに入力し、生きた情報をどしどし提供していきたい」というのが夢。一九九一年に札幌出身の日本人女性と結婚、二歳の長女と札幌生活をエンジョイしている。

Copyrights © Nikkei Digital Media, Inc. All Rights Reserved.

Copyrights © The Hokkaido Shimbun Press. All Rights Reserved.

本サービスに関する知的所有権その他一切の権利は日本経済新聞デジタルメディア、北海道新聞社またはその情報提供者に帰属します。また本サービスは方法の如何、有償無償を問わず契約者以外の第三者に利用させることはできません。